

第10回軽金属功績賞

軽金属功績賞は、軽金属に関する学術研究および技術開発に顕著な功績を上げ、当会の発展に貢献した者に贈られる。軽金属功績賞選考委員会（委員長 山内重徳）の審査を経て、平成24年2月28日（火）に開催の第7回理事会において慎重審議の結果、以下の2名の授賞を決定、第122回春期大会第1日目の5月19日（土）に九州大学において表彰式を挙行了。

受賞者 小野 幸子 君 工学院大学 教授 昭和23年2月17日生（64歳）

受賞理由



小野幸子君は、アルミニウム、マグネシウム、チタンなどの表面にアノード酸化や化成処理で、高い耐食性や機能性を付与する新規な処理法を開発するとともに、それらの機能発現のメカニズムを基礎的に解明してきた。アルミニウムでは、アノード酸化皮膜の自己規則化のメカニズムの解明を通して、任意に制御した孔サイズをもつ高規則性アルミナ皮膜の作成を可能にし、エッチピットの発生点制御について新規な手法を開発した。また電解コンデンサ用誘電体皮膜の誘電率の向上と漏れ電流制御の技術開発に貢献している。マグネシウムの酸化膜成長機構、チタンの生体組織適合性を高めるための表面ナノ構造制御などの分野でも目覚ましい成果をあげている。ここ10年間に国際会議における招待講演19件を数えるなど、同君の成果は世界的にも高い評価を受け、日本を代表する研究者である。同君は平成6年輕金属学会論文賞を受賞しており、近年の講演大会では、小野研究室の学生の多くが優秀ポスター発表賞を受賞していることからわかるように、人材育成の面でも大きな貢献をしている。本会では、理事、関東支部長、編集委員、講演大会実行副委員長、女性会員の会などで活躍している。

以上のように、同君の軽金属に関する学術および技術面の貢献は極めて顕著であり、ここに軽金属功績賞を授与する。

受賞者 福富 洋志 君 横浜国立大学 教授 昭和26年7月2日生（60歳）

受賞理由



福富洋志君は、軽金属材料を対象に、高温変形機構の解明と高温加工に基づく集合組織の制御に関する研究に邁進し、特に粒界構造理論に基づく結晶粒界挙動の実験的検証、高温変形中の粒界移動が組織形成に果たす役割の解明、集合組織形成と変形機構の関係、粒界すべりや動的再結晶を活用した集合組織の制御法の開発などについて数多くの成果をあげてきた。最近では固溶体硬化型アルミニウム合金の高温変形において見出された、ひずみの増加とともに不連続に生じる集合組織の変化機構を解明して新しい集合組織の制御原理に発展させ、軽金属材料のみならず金属材料全般に適用が期待される集合組織の新しい制御技術を提案している。これらの研究成果は高く評価され、Scripta Metallurgica Outstanding Paper Awardをはじめとして、日本金属学会論文賞などの論文賞や個人賞を多数受賞している。また同君は技術者教育に献身的に携わり、日本技術者教育認定機構の基準委員、材料分野分野別審査委員会の委員長等を務めてきた。さらに軽金属学会集合組織研究部会の世話人、編集委員、論文賞選考委員、評議員などを務め、軽金属学会の発展に努めている。

以上のように、同君は軽金属に関する学術および技術面に顕著な功績をあげており、ここに軽金属功績賞を授与する。